



重点取組及び地震被害状況を説明
報道機関へ記者発表を行う

九州森林管理局では、7月15日に一般紙、19日に専門誌に対し、2016年度九州森林管理局重点取組事項並びに熊本地震の被害状況及び対応について、記者発表を行いました。

重点取組事項の記者発表は当初4月に予定していましたが、熊本地震の発生により延期していたもので、今回は熊本地震の被害状況などを含めて行ったものです。

記者発表では、冒頭、測上和之局長から林業の成長産業化に向けた取り組みを積極的に行う



挨拶を行う測上和之局長

こと、地震被害からの復興に向け迅速な対応を図っていく旨の挨拶の後、各事項の担当者より具体的な内容について説明を行いました。

熊本地震の被害状況については、林野関係被害の発生状況、国有林の被害状況などをドローン空撮映像を活用し説明、崩壊危険箇所調査では、林野庁が行う航空レーザー計測での調査の内容などについて説明しました。

また、地震の対応については、熊本県の要請を受け直轄施行による災害復旧事業を行うこと、地震後の避難住民の受け入れや、物資の提供、被災市町村への支援として職員派遣、国産材合板を使った間仕切りや更衣室を設置し

局長交代

測上前局長は北海道局長へ
後任は池田 前 整備課長

8月1日付で測上和之前局長が北海道森林管理局長へ転出し、後任に池田直弥・前林野庁森林整備部整備課長が就任しました。

新局長の略歴は次のとおりです。



いけだ なおや
池田 直弥

(東京都出身：56歳)

昭和60年4月 農林水産省入省
(上級甲・林学)

平成19年4月 林野庁森林整備部計画課首席森林計画官

平成21年9月 林野庁森林整備部整備課造林間伐対策室長

平成22年7月 林野庁森林整備部研究・保全課技術開発推進室長

平成24年4月 関東森林管理局計画部長

平成25年4月 関東森林管理局計画保全部長

平成25年7月 林野庁森林整備部研究指導課長

平成27年8月 林野庁森林整備部整備課長

平成28年8月 現職

た事例などについて説明しました。最後に、重点取組事項として、林業の成長産業化に向けた九州森林管理局の取り組みを項目毎に説明を行いました。



説明を受ける一般紙記者

説明後の質疑応答では、今後の復旧工事の予定などについて質問があり、その都度担当者より丁寧な回答を行い、記者の方々にも九州森林管理局の取り組みを理解していただき記者発表を終了しました。

(担当：企画調整課)



専門紙記者

コンテナ苗供給調整会議及び 生産技術向上検討会を開催

九州森林管理局では、7月26・27日の2日間に渡り、「平成28年度コンテナ苗供給調整会議及び生産技術向上検討会」を熊本市で開きました。

これは、主伐・再造林の推進に伴い、低コスト造林の推進のため期待が高まっているコンテナ苗の需給調整と生産者の育苗技術向上を図ることを目的としたもので、九州局では2013年度から毎年実施しています。

当日は、九州各県の樹苗生産組合、県林務担当者及び研究機関、森林総合研究所九州支所、林木育種センター九州育種場、九州整備局、日本森林技術協会、当局的職員など約90人が出席しました。



挨拶を行う大政部長

コンテナ苗調整会議では、大政康史森林整備部長が「主伐・再造林が推進される中、キチンと次世代を育てて行くことが重要。そのためには、コンテナ苗を安心して生産できる体制整備を図って行かねばならない」とあいさつ。

次に、古閑博行森林整備課長から「九州はコンテナ苗の生産技術等進んでいるが、更に技術の向上を図り、しっかりと苗木を作っていたきたい」とあいさつがありその後、島根県林業種苗協同組合の取り組みについて紹介がありました。

真井正造林係長からは、今年度と来年度の各県苗連の出荷量を基に、民有林・国有林の需要見通しを示しながら調整を行いました。またコンテナ苗を植栽した事業体を対象に行った「アンケート調査結果」を基に、コンテナ苗に対する意見・要望について意見交換を行いました。引き続き、生産技術向上検討会に移り、同部長が「情報を共有し、生産技術の向上に取り組んでいただきたい」とのあいさつの後、関係機関を代表して、森林総合研究所九州支所の山川博美氏から「九州におけるコン



現地で検討を行う参加者

テナ苗の植栽と活着の状況」、同関西支所の山下直子氏から「葉量の調整で活着率を向上させられるか?」ヒノキ苗に対する摘葉の効果、林木育種センター九州育種場の倉本哲嗣氏から「エリートツリーについて」、熊本県樹苗協同組合の小村哲典氏から「熊本県内の苗木生産の状況」について話題提供があり、多くの質問が寄せられるなど活発な検討会となりました。

翌日は熊本森林管理署管内の吉無田国有林1134林班内において、①一貫作業システムの取り組み②コンテナ苗の植栽及びシム対策の取り組みについて説明。意見交換後、甲斐博文技術普及課長が締めめのあいさつを行い、全日程を終了しました。

(担当) 熊本森林整備課、技術普及課

楽しく学ぼうダム祭の

【沖縄森林管理署】本年度も「森と湖に親しむ旬間」の一環として、7月17日に福地ダム夏休み自然体験会、23日に金武ダムまつり、31日に漢那ダムまつりが各市町村の主催のもと開かれ、当署も参加しました。

3日間とも天候に恵まれ、普段は入ることのできないダム施設の見学やダム湖遊覧、カヌー体験、木工教室、丸太切り体験などができるとあって、暑い日差しが降り注ぐ中、3会場とも多くの来場者で賑わいました。

また、今年から8月11日が国民の祝日として「山の日」に制定されたことから、「山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝する」としたPRも実施しました。

沖縄森林管理署で実施した主なイベントを紹介します。



①丸太切り体験
体験後の丸太はコースターとして持ち帰って頂きました。子どもから丸太コースターを手渡されたお父さんは、今晚もおいしい晩酌が出来ると笑いながら話されていました。

②紙トンボ作り
保護者の方や職員に手伝ってもらいながらハサミを小さな手で操り、作っていました。また、一



方では家族や友達同士で飛ばし合いっこをして、天高く舞い上がる紙トンボに拍手して喜んでいました。



③森林パネル展・森林クイズ
お子さんから年配の方まで、幅広い年齢層から参加していただき、国有林（森林管理署）の仕事や森の魅力、森林の働きなどについて、改めて認識を深めていただきました。



④親子木工教室
毎年人気があり受付から約1時間で予定数量に達する盛況ぶり。作業では、保護者が板をしっかりと押さえ、子どもが必死で釘を打つ姿はとても印象的でした。来年度も楽しく学べるイベントを企画し、多くの参加者に来て頂きたいと思っております。

民有林支援へ向け意見交換会

【宮崎南部森林管理署】当署と南那珂農林振興局が連携し、管内2市への森林・林業行政支援を目的とした、第1回目の意見交換会を開き、総勢21人が参加しました。

この意見交換会は、当署と振興局の森林総合監理士などにより、今年4月に結成した「広渡川流域支援チーム」による取り



問題提起する石神署長

組みの一環として開いたものです。

当初の予定では、当署管内の「林分密度試験地」において、

国・県・市町村の林務担当者による現地検討会を行う予定でしたが、あいにくの大雨となり、会場を当署入札室に変更し実施しました。

意見交換会では、「林分密度試験地の経過と現状」と題し、2004年度と14年度の調査結果を基に、紛当たりの立木材積、平均胸高直径、平均樹高等について説明を行った後、石神智生宮崎南部森林管理署長から「植栽密度試験地の経過を参考とし

た植栽密度の検討」と題した、主伐・再造林の推進や、植栽密度と造林コストなどについての問題提起がありました。

その後、昨年度南地区で問題となったおが粉不足や、バイオマス発電、システム販売、さらに、市町村森林整備計画の多様なゾーニングの考え方について意見を交わしました。

最後に、国有林をフィールドとした、現地検討会や意見交換会を通じて民有林支援を行うこ

とを確認し、有意義な中に意見交換会を終了しました。



意見を交わす参加者



私は、高校時代より自然環境に興味があり、農業高校に進学して、農業と自然環境を学んだ。また、高校時代にアメリカの生物学者であるレイチェル・カーソンが執筆した『沈黙の春』を読んで、自然環境の大切さを覚えたのである。それから、自然環境保護団体に参加して、自



松田 寛さん

然環境保護の活動を長年活動し続けて、現在は、環境教育学を通じて自然環境の大切さを子供たちに伝えていく。子孫永劫に伝えていきたいと思った反面、もっと森林に関することを勉強したいと思っていたところ、今回の「国有林モニター」を知り、応募した。モニターを通じて今後は、先ほど述べた通り、森林の勉強をしながら森林の役割と大切さを伝えていきたいと思っています。

私は、平日頃から森林について思っていることがある。それは森林に感謝していることである。ここで今一度、森林の役割を述べて自然の大切さを感じた

森林の大切さを感じてみよう

と思う。森林は、水源を蓄えて、地球温暖化を防止している。森林の中には、落葉や落枝などによる堆積物や土壌生物が住み、表土がスポンジのようになっていく。雨が降ると雨水をたくさん浸透し、ゆっくりと時間をかけて河川に水を流す。このよう

この水は、飲料水だけではなく農業用水、工場用水、発電用水などに利用されている。栄養分を含んだ水は川から海へ流れ込み、海は魚場を育てるよう自然的なシステムみたいなものがある。さらに、私たちの生活において、潤いを与えてくれる。森

に、森林があることで水の流れを調節するいわば、自然のダム役割をしてくれているとともに洪水や濁水を緩和する作用を持っている。

また、森林に降った雨が土壌に浸透する間に水が濾過され、化学物質を取り除き浄化する。

に入ると、木々の緑の美しさ、香り、川のせせらぎ、さわやかな風、小鳥のさえずりなど、気持ちのリラックスさせる作用がある。人間だけではなく、動物、生物にとっても森林は大切なものである。そして森林には食料も豊富である。このことから、人間も含む多くの動物が住みや

すい場所といえるのである。そして、森林は、雨風を防いでくれる。しかし、我々は、この自然のサイクルを知っていたらならば、森林を壊すことをしなかったのではないかと思う。しかし現に、我々は自然破壊をしているのは事実である。自然にとって人間は自然の驚異ではないかと思われ。我々人間は今一度、森林の大切さを感じ、自然とともに、生きていることを忘れてはいけ

（福岡県中間市在住）

綾プロ第24回連絡会議を開催

7月14日、宮崎県綾町役場において、「綾の照葉樹林プロジェクト（略称：綾プロ）」の第24回連絡会議が、九州森林管理局、宮崎県、綾町、公益財団法人日本自然保護協会、一般社団法人

綾プロの運営について、事務局を担う「綾の森の会」がより地元に着した活動を推進するため、宮崎市から綾町に移転することから特別寄付を募るキャンペーンを行うこと、さらに綾プロ全エリアを含む「綾ユネスココエパーク」について、3月から4月にかけて綾町民を対象に行われたアンケートの解析結果の概要が報告されました。

会議は、協定5者から2015年度事業報告及び16年度事業計画（案）が報告・提起され、満場一致で確認・承認されました。

また、その他の議題として、綾プロの運営について、事務局を担う「綾の森の会」がより地元に着した活動を推進するため、宮崎市から綾町に移転することから特別寄付を募るキャンペーンを行うこと、さらに綾プロ全エリアを含む「綾ユネスココエパーク」について、3月から4月にかけて綾町民を対象に行われたアンケートの解析結果の概要が報告されました。

会議は、協定5者から2015年度事業報告及び16年度事業計画（案）が報告・提起され、満場一致で確認・承認されました。

また、その他の議題として、綾プロの運営について、事務局を担う「綾の森の会」がより地元に着した活動を推進するため、宮崎市から綾町に移転することから特別寄付を募るキャンペーンを行うこと、さらに綾プロ全エリアを含む「綾ユネスココエパーク」について、3月から4月にかけて綾町民を対象に行われたアンケートの解析結果の概要が報告されました。



審議を行う出席者

【熊本森林管理署】7月24日、菊池市の竜門ダムにおいて、「竜門ダムフェスタin菊池」が開かれ、当署からも木工体験コーナーで参加しました。

当日は、晴天に恵まれ気温も

竜門ダムフェスタに参加

（担当：計画課）

【熊本森林管理署】7月24日、菊池市の竜門ダムにおいて、「竜門ダムフェスタin菊池」が開かれ、当署からも木工体験コーナーで参加しました。

当日は、晴天に恵まれ気温も

高い中でしたが、多くの子供や親子連れが訪れました。

木工体験では、スギの板を利用した本立てや丸太を切って作るペンダント作り、火起こし体験を行いました。

中でも本立て作りは材料が午前中だけでなくほとんど人気があり、子供たちは慣れない金づちを使い親子で協力しながら楽しく作製し、でき上がった本立てやペンダントを大事に持ち帰っていました。

参加者には、木工体験を通して木とふれあうことで、森や木について少しでも興味を持ってもらえたようです。



大人気となった木工体験

シカ被害対策がスタート

【北薩森林管理署】8月1日、阿久根市役所会議室において、当署、阿久根市、（一社）阿久



調印式を終えた3者

根市有害鳥獣捕獲協会の関係者及び報道関係者の14人が出席し、阿久根市内の国有林及び周辺のシカ被害対策推進のためのシカ被害対策協定書の調印式を実施しました。

冒頭、協定の提案者である前田三文北薩森林管理署長から、今回の協定締結の意義について挨拶があり調印式に移りました。調印式後、西平良将阿久根市長は、「これから3者で協力体制を構築しシカ被害対策に取り組み、阿久根市の農林業被害や森林生態系被害等の防止に努めたい」と挨拶、また、牧尾正恒阿久根市有害鳥獣捕獲協会会長は、「阿久根市もシカ等の被害が増加しており捕獲対策が必要、我々はシカという自然の恵みに感謝し利活用にも取り組みながら、協定の目的を達成していきたい」との挨拶があり、3者連

携したシカ被害対策がスタートしました。

シカ被害対策協定を締結

【宮崎森林管理署】8月1日、宮崎市（田野総合支所）、田野町有害鳥獣駆除対策協議会と当署の3者によるシカ被害対策協定を締結しました。

当署管内では、小林市、綾町、国富町の国有林を中心に、シカの生息区域が拡大し、森林被害のほか農作物にも多大な被害が発生している状況にあり、宮崎市においても旧田野町、旧高岡町を中心に、シカ被害が年々増加傾向にあります。

本協定を締結した田野地区は、シカの生息区域の南下を食い止める重要な地域で、本協定により、シカ被害の軽減及び生息区域の拡大防止に、三者で連携して取り組むこととしています。



協定を締結した3者

取締監視員委嘱状を交付

【宮崎森林管理署】7月8日、当署において、宮崎市内の一ツ葉海岸林（前浜国有林）での監視などを実施していただくため、穂（あおき）振興会（会長児玉久夫氏）の6人の方々に、取締監視員委嘱状の交付を行いました。

*委嘱期間は1年間（2016年7月9日～17年7月8日）

この取り組みは、2000年度から進められており、海岸林の保全や管理を目的に、ゴミの不法投棄やマツの不法採取などを監視するために活動していただいているものです。

穂振興会は、海岸林に隣接する地元住民で構成され、一ツ葉海岸林の監視活動のほか自主的なマツの植栽や保育を行うなど、海岸林の育成に積極的に取り組んでおられます。



委嘱状の交付を終えて

当署では、一ツ葉海岸林を保全するため、引き続き穂振興会と緊密に連携し積極的な取り組みを展開することとしています。

高校生が林業体験学習



クイズに挑む高校生

【宮崎南部森林管理署】宮崎県立日南振徳高校2年生18人を対象に三ツ岩林木遺伝資源保存林において、林業体験学習を行いました。

この体験学習は、次代の担い手である高校生に森林・林業・木材産業への理解を深めてもらうため、毎年、宮崎県林業労働機械化センターの依頼を受けて実施しているものです。

当日は、餌肥林業の歴史、餌肥スギの特徴などについて、説明板やパンフレットを用いて説明を行い、その後林内に移動し、2班に分かれて計測器具を使わずに餌肥スギの樹高と胸高直径当てクイズに挑みました。

その後、直径巻き尺を使い実際に生徒たちに計測してもらった結果、中にはずばり当てる生徒もおり職員も驚いていました。今回参加した高校生の中から宮崎県の林業を担う人材が育つことを期待して、林業体験学習を終了しました。

法人の森林で保育作業

【熊本森林管理署】7月17日、南阿蘇村久木野の分収造林契約地（飽田の森）において、飽田地区青少年健全育成連絡協議会、飽田の森を育てる会による第17回目の保育作業が行われ、総勢21人が参加しました。

同協議会及び育てる会は、青少年の健全な育成、明るく住みよい飽田の地域づくりなどを目的とし活動されており、その活動の一環として、毎年飽田の森において保育活動に取り組んでいます。



保育作業に汗を流した皆さん

当日は、あいにくの雨模様でしたが、作業を始めるときには雨も上がり、参加者は約1時間汗だくになりながらも、手慣れた様子で生い茂った雑木を刈り払っていました。

今回整備した、飽田の森においては、飽田中学校の恒例行事となっており、新卒業生による記念植樹を予定しています。

若手経営者と勉強会

【北薩森林管理署】7月22日、三星会（中越パルプ工業に製紙用原料・バイオマス燃料を納入している木材会社等の若手経営者）からの依頼を受け、当署会議室において、「北薩地域の国有林の現状や再造林の取組等」をテーマに若手経営者ら8人と勉強会を開きました。

勉強会では、前田三文北薩森林管理署長から、新たな森林・林業基本計画のポイント、九州

森林管理局の重点取組事項、北薩森林管理署の概要及び取り組みなどを説明し、質疑及び意見交換を行いました。

意見交換では、今後の業界展望などについて、若手経営者が抱える課題や対応策について議論するなど、有意義な意見交換となりました。

最後に森大輔三星会会長から「若手中心の会ではあるが、今後もこのような勉強会を通じて業界発展につなげたい」旨挨拶があり、勉強会を閉会しました。



三星会の皆さんと署長

★お知らせ★

九州森林管理局では、先の「熊本地震」による園内建物の被災、熊本城内立ち入り規制などにより、臨時休園としてきました「監物台樹木園」につきまして、開園可能な準備が整ったことから、熊本地震後の復興の先駆けとして、8月11日の「山の日」に開園することといたしましたのでお知らせいたします。

◎監物台樹木園の開園

- ・8月11日（木）祝日「山の日」
9:00～開園
- ・入園料：8月11日～31日までは無料開園いたします。
(担当＝技術普及課)

緑の少年団員が樹木博士に

【北薩森林管理署】7月24日、

伊佐市立本城小学校において、当署と始良・伊佐地域森林・林業活性化センターが連携をとり、伊佐地区緑の少年団交流会を開き、本城緑の少年団及び高熊山緑の少年団の団員並びに保護者など約70人が参加しました。

当日は、森林の働きの説明、交流輪投げ大会などがあり、当署からは、今年から国民の祝日となった「山の日」についての説明及び「子ども樹木博士認定会」を実施しました。



樹木の説明を受ける少年団員

認定会に参加した少年団員たちは、まず、校庭にある樹木から作成した「手づくり図鑑」(20種類)を手に、校庭を回りながら、当署職員から、樹木の特徴や名前の由来などについて説明

を受けた後、体育館に並べたサンプルを見ながら樹木名を解答用紙に記入しました。

その後の表彰式で、正解数に応じ段位判定した「子ども樹木博士認定証」を授与、正解数の最高は14問で、「初段」の称号が授与されました。

また、少年団員たちには、タネとばしキット(ロケットラウン)のプレゼントもあり、参加者からは、「日頃見ている木でも知らないことがあった」「楽しい体験だった」との感想があり、知識と経験を向上させる交流集会となりました。



石灰岩地や蛇紋岩地に多い常緑小高木です。福岡県古処山のツゲ原生林は有名です。

ツゲは印鑑に使われていることとは広く知られ、材は黄色で硬質で緻密なことから、将棋の駒や櫛等に利用されています。

ツゲは、次(ツグ)という言葉が変化してツゲとなったといわれ、層をなして密につき、葉が次々についてくることからの名前となっています。

葉は対生、倒卵形または長楕円形、革質で光沢があり、微凹

人のうごき

8月1日付林野庁長官発令

関東局計画保全部計画課長

近藤 昌幸【計画保全部計画課長】

計画保全部計画課長

山崎 準【近畿中国局総務企画部企画調整課企画官】

8月1日付森林管理局長発令

鹿児島署事務管理官

原口 隼人【宮崎署都城支署森林官】

(担当II総務課)

佐賀署地域技術官

鶴山 喜之【佐賀署】

大分西部署地域技術官

清田 泰志【大分西部署】

宮崎署地域技術官

古川 さおり【宮崎署】

鹿児島署首席森林官

宮川 貴之【鹿児島署事務管理官】

105 ツゲ(ツゲ科)

頭全縁で縁はやや裏に巻いています。ツゲは1属(科)1種の植物で、イヌツゲは互生、モチノキ科で全く違った樹木です。樹木園には入って右側、一番目の仕切りに生えています。

古処山には、オオヒメツゲ、アサマツゲ、マルバツゲが保護されていると看板にありますが、現在は「ツゲ」として分類されています。

(日本植物分類学会では種内分類を与えず Buxus microphylla としています)



みどりの散歩路

うだるような暑さが続いています、連日「真夏日」の単語が聞かれ、先日は日田市で38・2度が記録され、その日の日本の暑さとなりました、また、北海道を除く全国で、今月中旬まで平年より暑い日が続くという予報が出ていました▼こう暑いと外出も控えたくなりませんが、今月11日が「山の日」で祝日ということ、登山や森林浴などに親しむイベントを予定されている方も多いと思います▼山の日には「山に親む機会を得て、山の恩恵に感謝する」ための日となっています、登山やハイキング、森林浴などで大いに山に親しんでいただき、美しい景色やきれいな空気、おいしい水や山菜などの山の恵みを堪能し、心身ともにリフレッシュしていただきたいと思います▼しかし山には様々な危険も潜んでいます、気象情報や登山道の状況など事前の確認を十分に行ってくださいとともに、登山の場合は登山届けの提出も忘れず行っていただきたいと思います▼安全に気を配り、装備や暑さ対策などの準備を万全に、山を満喫してください。

(X)